



からしだねの由来 マタイ 13章 31節、マルコ 4章 30節、ルカ 13章 18節

ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会
編集・広報委員会
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3
〒807-0025
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354
第 423 号

韓国・仁川教区での五日間

フランススコ・アシジ 谷口尚志

先日6月5日(月)～9日(金)までの期間、福岡教区司祭としての黙想会が韓国・仁川(インチョン)にて行われました。期間を通して天候にも恵まれ、6日には仁川教区創設記念日に合わせた聖体大会でのミサと聖体行列に参加後、仁川教区長であるヨハネ ジョン・シンチョル司教様に案内されて教区本部事務局を訪問、それからカテドラルのタブドン聖堂と隣接する資料館に向かい、仁川教区の司祭団との分かち合いを行いました。翌7日には韓国のカトリック教会の歴史についての概要を聞いた後、仁川教区立カトリック大学(日本における“大神学校”はこの学内に設置されている)を訪問しました。また、8日にはバスで片道3時間ほどをかけて大田(テジョン)教区内にある「ハブドゥ聖堂(1890年に建立)」と、すぐ近くに位置する朝鮮王朝時代で最大規模といわれているカトリック信者の集落(400名ほど)があった聖地「シンリ」(1886年3月、ここでパリ外国宣教会の司教と司祭2名が捕縛されて殉教。村人も40名ほどが捕縛され、後に殉教した)を訪問し、その後、1845年4月30日に上海で韓国人初の司祭に叙階され、約1年後には捕縛されて処刑されることになるアンデレ 金大建(キム・デコン)神父の生誕地である聖地「ソルメ」(直訳すると「松の山」)に向かい、それから2時間半ほどをかけてソウル市近郊の竊頭山(チョルトゥサン)に立ち寄って祈りを捧げました(※竊頭山にはイ・スンヒョン神父様の遺骨が収められている納骨堂があります)。9日はそれまでの時間を振り返りながらの黙想を行い、午後帰国しました。

このように、正直、黙想をする時間よりも学ぶことを体験する時間の方が圧倒的に多かったわけですが、多くの方から話を聞いたり、信仰の証を目で見て確かめたりするなかで、私は次のような問いかけがなされていると実感しました。それは、カトリック教会の信徒および司祭として何を喜びとしているか、司祭としてどんな希望をもって生きているか、福音を宣べ伝えることの意味は何か、今の時代に命を懸けて生きることとは何を意味しているのかなどです。6日の聖体大会でのミサと聖体行列、その後の

旅の話(16)・・・・・・・・・・・・・・・・	3面
ベトナム青年会の活動を紹介・・・・・・・・	4面
幼稚園から・・・・・・・・・・・・・・・・	5面
委員会等報告・・・・・・・・・・・・・・・・	6・7面
今月の聖人・・・・・・・・・・・・・・・・	7面
お知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・	8面

司祭団との分かち合い、韓国における教会史と殉教者。信徒数、教会組織や司祭の数などの違いはあれど、韓国のカトリック教会は自分たちの信仰に自信を持ち、皆で祈り、キリストを中心に喜び祝う心を大事にしていることがひしひしと伝わってきたからこそ、そう実感することができたのではないかと思います。

前後しますが、韓国のカトリック教会は宣教師がやって来て形成されたのではなく、中国から輸入されていく西学と呼ばれる文物が知識人に知れ渡り、その中にあったマテオ・リッチが著した『天主実義』に触れた一人が、北京で1784年に洗礼を受けたことに始まります。彼が持ち帰った数々の教理書に触れた人々がソウルやヤングン（現在の京畿道楊平郡にあった行政区域）に信仰共同体を形成していくことになるのです。その後、100年の間に殉教者を1万名ほどをも出す受難の日々を送ることになるのですが、自分たちがこの信仰を、自信をもって受け入れることができたという体験。この共通の体験をわたしたち日本の信徒も今一度思い起こす必要があると思います。ただキリストに従い、キリストの命と結びつけられた命を捧げることで流した血。韓国であろうが日本であろうが関係なく、これは洗礼を受けた私たちの中に流れる血と共通のものだからです。



旅の話 (16)

岩本光弘

私が現役で働いていた時に考えていたのは定年退職したら海外の旅をすることでした。海外の旅では聖書の旅と山のトレッキングをすることにしていました。聖書の旅は96年に広島教区の肥塚神父とトルコに行き感銘して帰りましたので、退職したら絶対に行こうと思っていました。山は若いころから途切れず登っていました。九州各地にくじゅうの山小屋で知り合った山の友がいて一緒に各地の山に行っていました。若いころ海外の山の話のいろいろ聞いたことがありましたが、38歳の時にフランスアルプスに登る機会があり、海外には日本にはないスケールの山があることを知って、チャンスがあったら行こうと考えていました。

40歳代の最後に三回の海外の山とトレッキングに行きました。一回目は韓国の最高峰のハンラ山に登るために韓国・済州島に出かけました。二回目は年末年始の休みを使ってネパールにヒマラヤを見に行きました。一度ヒマラヤを自分の目で見たかったからでした。初めて見た雄大なアンナプルナ山脈は想像以上で感激しました。翌年もう一度ネパールに行きましたが、この時は経験したことのない4000m超えのコースでしたが楽しく歩きました。

海外の山に行くためには個人ではかなり手続きや旅程の準備が大変です。日本ではどの山も自由に登れますし写真も撮れます。海外では入国ビザが必要な国も多く、山麓地域に入るにも許可が事前に必要な所も沢山あります。ネパールでは山域ごとに検問所があります。

山小屋やロッジがないコースを何日も歩くとテントや食料が必要になります。テントや寝具や食料の準備や搬送は現地ではできませんので、専門の会社に頼ることで短期間に楽しい山旅をして帰ることができますが、このような秘境と海外の山が専門の会社を見つけましたので、その会社のツアーを利用することにしました。少し割高なのですが、短期間で旅ができて十分なサポートがあるので、この後も長くこの会社の旅を利用しました。

ネパールのトレッキングはイギリスがインドを植民地にしていた時に形が出来上がりました。暑いインドからネパールへ避暑に出かけたイギリス人が母国で召使を使う貴族スタイルをトレッキングに取り入れました。現地のスタッフはコースのガイドから食事の準備やテントの設営までします。朝はテントにモーニングティーが来ます。その後に洗面器とぬるま湯が来てテントの前で洗顔します。持って歩くのはデイバックにカメラ・水などだけで、残りの荷は大きいリュックに入れておくとポーターが全部次の宿泊地まで運んでくれます。ヒマラヤを見ながら朝食を済ませると食器やテーブル・椅子まですべてをポーターが運んで我々を追い抜いていきます。昼食の予定地に着くと追い抜いて行った食事のスタッフがシートを広げて食事を準備して待っています。そのために途中わざとゆっくり歩いたりして時間調整をします。宿営地に着くとすでにテントが張られていてジュースやティーが待っています。ヒマラヤを見ながらのんびりしていると夕食になります。ネパールでの極地登山隊もトレッキングもすべてこのようなサポート体制が組まれています。

カトリック水巻教会のベトナム青年会の活動を紹介

ロゴマークの意味→水巻のカトリックの青年、愛と奉仕

メンバーは60名 毎週日曜日の午前中のミサ、毎月第三日曜日午後6時からのベトナム人神父によるベトナム語のミサに参加します。

母国語の典礼聖歌を歌い、5月の聖母月21日にはベトナムの教会で毎年行われているミサと同じように、各自がお花を持ち寄り壇上のマリア様に捧げました(信徒会館に安置されているマリア像)



毎月のミサ後、誕生日を迎えた人の祝会が信徒会館で行われます。ケーキやプレゼントを分かち合い楽しい歌とメッセージで盛り上がります。小教区のミサやパーティだけではなく、福岡司教区の他の小教区のベトナム人が一同に集まる集



会などにも参加しています。日本の移り行く季節の中で、本国では見られない景色や花の美しさを感じるハイキングなど、健康的な活動もしています。

遠く故郷を離れて日本で働く青年達にとって、教会は友人と母国語で話せる唯一の集いであり、祈りと感謝そして楽しい憩いの場所です。





水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 7月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

〈水巻聖母幼稚園〉

来月のお楽しみ会に向けて、子どもたちと畑のじゃがいもと玉ねぎを収穫しました。収穫した野菜を見て、「大きいね」「早く食べたいね」とお話ししている子どもたちでした。お部屋では、野菜を触ったり、においを嗅いだり、たくさん観察していました。たくさんのお恵みをいただいていることに、感謝していきたいです。



先日、園庭で水遊びをしました。自分で水着に着替え、初めての水遊び

に、子どもたちは楽しそうな様子でした。

これから暑い日が続きます。熱中症に気をつけて、子どもたちと元気に過ごしていきたいです。

水巻聖母幼稚園 TEL : 093 201 9559



〈マリア子どもの家〉



「マリア子どもの家」は、開園して6年目になります。当時植えたビワの樹が、昨年初めて10数個実をつけ、今年はビックリ!!豊作でした。

冬に花を咲かせ、小さな緑の実が、ぐんぐん大きくなり、どんどんオレンジ色になっていくのを観ました。

「ビワ、ですよ!」小さな手に載せてもらい、大事そうに持っていました。

畑やプランターで、じゃがいも掘りもしました。枯れた茎を引っ張り、土を掘ります。

コロコロ出てくるお芋を、必死で取りました。そして、エプロンをつけた子ども達が、ごしごしタワシで洗いました。次の日の朝のおやつは、蒸して、マヨネーズかお塩をつけたじゃがいもでした!!

マリア子どもの家 TEL : 050 5212 7759

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長 水口 由美/教職員 一同



委員会等報告

2023年6月分

6月度小教区委員会 6月4日

1. 行事予定

- ・7月 2日(日) 教会学校
- ・7月 9日(日) 小教区委員会
- ・7月16日(日) 18時～ベトナム語ミサ
- ・7月23日(日) こころの会・教会学校
- ・8月 5日(土) 教会学校 Day キャンプ
(新田原教会にて)

2. 議題

(1) 各専門委員会および代表委員(営繕、納骨堂、冠婚葬祭)、北九州地区宣教司牧評議委員より

① 広報委員会

・委員長の交代について7月の委員会の会合で話し合うこととした。

② 総務委員会

・9月17日(日) ミサ後に敬老の祝いを行う(75歳以上が対象。前年と同様に菓子の配布を行う)。準備のため、各地区の名簿を教えて欲しい。

③ 財務委員会

・信徒総会で配布した資料において訂正箇所があるため、「からしだね」7月号に掲載する。

④ 営繕の部

・内陣横の部屋の一つに「お花を生ける会」のためのスペースがあるが、整理をするため(典礼委員会も使用する)、専用の棚を設置することとする。

・現在、建物の修繕や設備に関わる工事等に

おいて、その都度、協力者を募っているが、今後は定期的集まりを行って正式な部会として予算案なども提出したうえで、修繕や工事を行っていきたい。

・聖堂内の蛍光灯(入り口以外)をLED照明に交換した。

・女性用トイレ奥の和式便器を改修する必要があるため、洋式のものにする(30万円程度の工事費がかかる)。

⑤ 納骨堂管理の部

・7月、ここ数年行っていなかった利用者のための総会を行いたい。

⑥ 冠婚葬祭の部

・7月16日(日)に行われる結婚式の案内板のため、新郎新婦の姓名を知りたい(主任司祭へ)。オルガン演奏、お茶の準備、生け花の準備等の奉仕をして下さる方には依頼済み。

⑦ 北九州地区宣教司牧評議会(次回開催:9月10日(日) / 14時～小倉教会)

・8月11日(金)、福岡教区主催の平和の集いが大名町教会にて行われるので、参加をお願いしたい。

・北九州地区における聖書講座の日時と場所が決まったので参加をお願いしたい(掲示板を参照のこと)。

・10月15日(日)午後より、ディエゴ・加賀山隼人殉教者の記念ミサが行われるのに合わせて小教区でも主日ミサ後に取次ぎを願う祈りを捧げることとする。

(2) 信徒総会を振り返って

- ・参加者は52名。委員会や各部、小グループの紹介や呼びかけ等の時間は有意義だった。また、2022年度収支報告書や2023年度予算案についても見やすい形に整えられていてよかった。
- ・来年度、総会の議長は小教区委員長が務め、配布資料の作成は一週間前までに行うこととなっている。

(3) 9月17日(日)に行われる敬者のお祝いについて

- ・昨年、菓子を配布するために時間のかかった赤間地区に関しては手分けして行うこととする。

**(4) 9月23日(土)の巡礼準備について
※ ()内は担当者**

- ・萩カトリック教会への連絡および勉強会 → (神父)、参加者の集計 (締め切り日は

7/23) → (各地区委員、上川)、保険加入申請 (参加者集計後に) → (坂本)、下見とスケジュールの組み立て → (神父・岡部)、観光バス会社の申し込み (参加者の集計後、また、下見を経たのちの具体的なスケジュール作成後に) → (岩本)、弁当や菓子類、お茶等の手配 → (赤石、大原)、当日配布用のしおり作成 (勉強会で使用する資料を活用) → (山口)、参加申込書の作成 → (神父)。

- ・参加申込書に記載していただく内容は次のとおり。

- 1、参加者の氏名および年齢。
- 2、地区名。
- 3、弁当の要/不要 (要の場合は参加費1500円、不要の場合500円)。

(5) その他

- ・他の教会では具体的に節電の呼びかけを行っているので、水巻教会も心掛けるべきではないか。

今月の聖人**25日 聖大ヤコブ使徒 1世紀**

イエスの12使徒のひとりであるヤコブは、ガリラヤの漁師の家に生まれた。福音史家ヨハネとは兄弟である。彼が、大ヤコブと呼ばれるのは、使徒の中で最初の殉教者であり、イエスのいとこにあたる小ヤコブと区別するためである。彼は、パレスチナの王ヘロデ・アグリッパのキリスト教迫害の際に捕えられ、斬首された。

ヤコブは、スペインの守護の使徒と呼ばれているが、それは、遺体がスペインに運ばれたからだと伝えられている。

数世紀にわたる迫害と民族移動によって不明となっていた墓は、813年に発見された。その場所は「コンポステラ」(星が現われて、聖人の墓の場所を示したという伝説による)と名づけられ、最も重要な巡礼地となり、現在に至っている。



7月のおしらせ

★信徒総会資料の訂正★

総会資料を一部訂正します。

- ① 折尾・高須青葉地区の地区代表委員
大塚さんからアブドゥハン恭子さんへ
- ② 小グループに、ラシーヌの会が抜けていました。代表者は矢田 公美さんです。
- ③ 会計報告
支出欄下の特記事項
「2. 営繕引当預金積立費は①教会維持献金
②ミサ聖祭献金の合計 10%を当てます。」
が正しい内容です。

★巡礼旅行の申し込み★

9月23日(土)に巡礼旅行を行います。その参加申し込みの締め切りが、7月23日(日)までです。申し込み用紙が聖堂後ろにありますので、内容を確認されて、期日までに申し込みをお願いします。

★こころの会★

こころの会からのお知らせです。
6月25日に、こころの会があります。今回から聖書の上映会を始めます。初回は「コレハトのことば」です。1～6まであります。新約聖書の福音書4回もあります。

25日ミサ後のこころの会で、ベトナムの方との交流として歌をお願いしています。皆さんの参加をお待ちしています。

人-ひと

【帰天】安らかに！

◇フランシスコ 田口 一之さん
(梅ノ木地区)

